

地名伝承学論 補訂



池田 末則: 著

定価 13,200 円(12,000 円+10%税)

ISBN 978-4-87733-229-7 C3025

A5 判／全 824 頁／上製函入／クロス装

■地名文化論——その発生と伝承過程を語る。

地名は土地に刻まれた歴史である。特に古代地名は古代社会に住んでいた人々の暮らしの痕跡が残された社会的所産であり、時代の推移と共に累積された歴史的遺産でもある。

それ故、地名の伝承を実地調査考究することによって、古代住民の暮らしや歴史がうかがわれる。日本列島の中央部を占めている奈良地方は、他の地方より多くの古代地名が遺された。奈良地方が他の地方より地名の密度が高いことから、この地方は古代から高度の文化が形成されていることが推察される。本書の著者はこのような奈良地方の古代地名の発掘を志し、初代中野文彦先生の日本地名学研究所創設当時からこれに従事されてきた。特に小字地名の収集に注目し、奈良県内各市町村の地籍台帳記載の小字地名の呼称法及び俗称地名を調べた。著者は『大和地名大辞典』、『奈良県の地名』、『日本地名伝承論』、『地名伝承学』など、古代地名研究に多大なる業績を挙げられたことは他の追随を許さないものだろう。

——李炳銑(釜山大学名誉教授)「緒言」より

【内容】

古代地名の発掘

地名表記論—二字・好字化地名など

「記・紀」地名の表記／二文字化地名／好字(嘉字)地名／転訛・誤写の地名／木簡地名

地名用字例を考える

地名字音の用字例／枕詞の地名

古代地名の伝承—説話地名

地名学研究—研究史・地名改変の問題・地名享有権・姓氏と地名

大和地名研究所—日本地名学研究所(奈良県)／日本地名研究所(川崎市)／信濃史学会(長

野県)

地名改変の問題—法隆寺地名裁判／地名享有権—地名を守る運動とその意義／姓氏と地名

地名起源論

大和／奈良(添上)／生駒(添下)／磯城(式上・式下・十市)／高市／葛城(南・北葛城郡・大和高田市)／宇智／吉野／宇陀／山辺